

IAUD Newsletter vol.9 第 6 号(2016 年 9 月号)

1. 第 7 回国際応用人間工学会議／第 1 回インクルーシヴデザイン国際会議参加報告…… 1
2. 第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋開催のご案内…… 7
3. IAUD 9 月の予定…… 7

IAUD 総裁瑠子女王殿下が感動的なご講演

第 7 回国際応用人間工学会議／第 1 回インクルーシヴデザイン国際会議参加報告



瑠子女王殿下がご登壇されたセッション会場

IAUD は 2016 年 7 月 27 日(水)から 31 日(日)までの 5 日間、ウォルト・ディズニー・ワールド・スワン・アンド・ドルフィン・ホテル(米国フロリダ州レイクブエナビスタ市)で開催された「AHFE2016(第 7 回国際応用人間工学会議)」(主催:国際応用人間工学会)に参加し、総裁の瑠子女王殿下もご臨席されました。

AHFE2016 は応用人間工学についての議論や情報発信、国際交流を目的としており、会期中には 28 のカテゴリーから 255 のセッションが実施され、世界 60 ヶ国から約 1700 名が参加しました。

会議 4 日目の 30 日(土)には、AHFE2016 の構成要素の一つとして新しく企画された「第 1 回インクルーシヴデザイン国際会議」内のセッション 145「Design for Inclusion: The Japanese Perspective(インクルーシヴデザイン:日本の視点)」において、瑠子女王殿下が「Who am I? Or you? What is a person? What does our existence mean? What do we mean by connections between people?(人とは何か?人の存在とは何か?人との繋がりとは何か?)」というタイトルでご講演され、感動的な内容に満席の会場からは大きな拍手が起こりました。

同セッションでは IAUD の川原啓嗣専務理事、IAUD 会員である京都工芸繊維大学の久保雅義教授やパナソニック(株)デザイン戦略室課長の中尾洋子氏、国際 UD 会議 2002(横浜)の発起人の 1 人でもある静岡文化芸術大学の古瀬敏名誉教授、IAUD 設立時の 2003 年から 2007

年まで副理事長を務めた岡山理科大学の後藤義明教授も論文を発表し、様々な観点から UD に関する日本の視点を紹介しました。

また、会議 3 日目の 29 日(金)には、IAUD アワード 2014 で医療福祉部門 IAUD アワードを受賞した「卓上型難聴者支援システム「COMUOON」(コミュニケーション)」の取り組みについて、ユニバーサル・サウンドデザイン(株)代表取締役の中石真一路氏が発表しました。

今号の Newsletter では同会議に参加した中尾氏と中石氏に報告していただきます。

会議参加報告① UD に関する日本の視点を世界に紹介

パナソニック(株)デザイン戦略室課長 中尾洋子

IAUD 関係者が登壇した「第 1 回インクルーシヴデザイン国際会議」内のセッション 145「インクルーシヴデザイン:日本の視点」には、275 名収容可能な大会議室がほぼ満席になるほど、多くの方々に参加いただきました。

IAUD は不可能を可能に出来る希望の場所

まずは瑠子女王殿下が、「人とは何か?人の存在とは何か?人との繋がりとは何か?」というタイトルで、英語でご講演されました。

瑠子女王殿下は自己紹介をされた後、IAUD についてご説明なさいました。「IAUD の目的は一人一人の人間性を尊重した社会環境づくりであり、人々が日々の生活を困難なく快適に過ごす未来を目指すというもの」と述べられ、主な活動内容として IAUD アワードや 48 時間デザインマラソン、UD 検定などを挙げられました。



瑠子女王殿下とご講演タイトル



ご講演なさる瑠子女王殿下

さらに、「父(故寛仁親王殿下)はいつも、『100%の障害者はいないし、100%の健常者もない。人間は皆、身体又は精神のどこかに障害部分を持っていて、なおかつ健常なる部分をも併せ持っている。UD とは、誰でもが豊かで快適な生活を送るためのものである』とっていました」と、前総裁である故寛仁親王殿下のお考えをご紹介されました。

さらに、「父からは『障害者と言われている人たち(障害者手帳を持っている)が、現実問題として、俺たちにとっては簡単に出来てしまうことでも、物理的に出来ない事があるのは事実だ。そこで障害者手帳を持っていない、いわゆる世の中で言われている健常者の俺たちがすべきことというのは、障害を持っている人たちも、皆が同じように過ごせる環境や、障害を持ってしまったことを悲観して生活するのではなく、奥底では想っている自立したいという気持ちや、すでに自立をしたいと発信している人たちのために、後押しをすることだ』と言われて育ってきました」とお話しされました。

そして、「私は UD に対する想いや、人に対しての思い入れの深さなどは充分にあるつもりです。IAUD で私が話しをする際、父の考え方にプラスして、『ありのままの自分と向き合い、そして人との繋がりを持ち、助け合い補っていくべき』と、お伝えしています。父が言っていたように、この世の中に完璧な人間などいません。IAUD は様々な業種や業態の企業、団体、個人の方々が会員になって下さっています。自分の在籍している企業や団体、個人だけで活動して

いたら、絶対に得られないことや見えないことが、この IAUD に参加していることで出来るのです。IAUD は不可能を可能に出来る希望の場所であると思います」と述べられました。

最後に、「今回私がスピーチしたことで、国際インクルーシヴデザイン会議と IAUD に深い繋がりが出来ることを心から願っています」とご講演を終えられると、国を超えて大きな感動を呼び、満席の会場には大きな拍手が沸き起こりました。

※近日中にリニューアルする IAUD ホームページに、瑤子女王殿下のご講演の全文を掲載します。

日本の細やかな UD 視点を海外に発信

次に、進行役も務めた川原専務理事は、「日本の UD: アメリカ発の理念の継承と発展」というタイトルで、日産自動車(株)の「UD タクシー」やパナソニック(株)の「いつもの便利×もしもの備えシリーズ」など、日本の進んだ UD の具体事例を詳しく説明しました。

続いて、久保教授は、「UD への触覚の応用: 視覚障害者への新たなシステム構築の研究」のタイトルで、タッチパネルやスマートフォンでの操作の課題を解決するために、三点点字入力方法や振動コミュニケーション等の有効性について報告しました。



満席となったセッション会場



パナソニックの家電シリーズ
「J コンcept」

さらに、私、中尾からは、「パナソニックの UD の取り組み」というタイトルで、課題先進国である日本の取り組み事例として、世界に先駆けての超高齢化に真摯に向き合った家電シリーズ「J コンcept」や、非常時グッズを日常でも使えるものにして大ヒットした「いつもの便利×もしもの備え」シリーズについて説明しました。

また、古瀬名誉教授は、「インクルーシヴな社会に向けた建築環境デザイン: どのように我々は都市で既存のインフラを改善することができるか?」というタイトルで、新幹線への車椅子での乗り降りなど課題事例も挙げながら、2020 年の東京オリンピックに向けて解決すべきポイントを話しました。

続いて、後藤教授は、「微小な床段差の形状が高齢者の歩行に与える影響」というタイトルで、やむなく生じる床の段差形状について、3 種類の高さと 3 種類のコーナー形状をかけ合わせて、高齢者の単独歩行とキャスター付き走行具使用歩行の歩きやすさの違いを研究した結果を報告しました。

セッションの最後に、誰もが共に生き生きと活動している近未来の UD 社会を描いたアニメーション「IAUD プロモーションムービー」を川原専務理事が紹介すると大変好評で、このアニメーションが欲しいと言われる人が来るほどでした。改めて、日本のアニメーションのグローバルでの価値を感じました。

今回の会議では IAUD と会員企業、大学など様々な観点で、日本の細やかな UD 視点を多くの海外の方に発信できたことは、非常に有意義だったと思います。



好評だった IAUD プロモーションムービー

※IAUD プロモーションムービーは以下よりご覧ください。

<http://www.iaud.net/udroom/archives/1306/07-121212.php>



セッション終了後、瑤子女王殿下は AHFE2016 議長 Waldemar Karwowski 氏や事務局スタッフ Anna Szopa 氏らと記念撮影されました。

瑤子女王殿下がお持ちになっているお鞆は、故寛仁親王殿下の遺品で、今回の会議へのご参加への瑤子女王殿下の真摯なお気持ちがうかがえました。

滞在中、Szopa 氏には瑤子女王殿下や IAUD 関係者に非常に親切な対応をしていただきました。

←記念撮影される(左から)瑤子女王殿下と Karwowski 氏、Szopa 氏

世界 60 か国から多彩なセッション

AHFE2016 会期中に行われた 255 のセッションでは、純粋な人間工学から車や住宅、都市への応用、高齢者への配慮、VR(バーチャルリアリティ)や AR(拡張現実)などの最新技術の研究等、多彩な発表があり、一度に多くの情報を得る事が出来ました。

また、各国や各業界のレベルや考え方の違いなども実感することができました。

特に関心を持ったセッションは、「第 5 回国際 UD 会議 2014 in 福島&東京」の招待講演者でもあったラーマ・ギーラオ氏(英国:王立芸術大学院ヘレンハムリンセンター)

による「Design as a tool to communicate diverse experiences during later life transitions (retirement)(リタイア後の人生に多様な経験をもたらすツールとしてのデザイン)」でした。

人々のリタイア後を考えると、TASK(任務)、PEOPLE(人間)、LEISURE(娯楽)の 3 つの割合を視覚化することで、不安などを理解しやすくなるそうです。日本でも似たような研究がありますが、視点が若干違い、大変興味深く勉強になりました。

また、ダン・フォルモッサ氏(米国:デザインコンサルタント)の「Six predictions about the

future of design(デザインの将来の 6 つの予測)」は、マーケティングと広告費はデザインのバジェットに(=これからはデザインが新しい広告となる)、デザインは原点に戻り人間工学と心理学中心に(=「何」ではなく、「何故」を考える)など、非常に参考になりました。

AHFE2016 での報告は、全体的に日本の取り組みのほうが進んでいると感じられる内容が多く、今年 12 月の「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」では、その進んだ日本の取り組みを世界に発信できればと思いました。



会場前での中尾氏



参加者でにぎわう会議場受付

会議参加報告② 聴覚障害者向けコミュニケーション支援機器「COMUOON」 ユニバーサル・サウンドデザイン(株)代表取締役 中石真一路

7月29日(金)に「第1回インクルーシヴデザイン国際会議」のセッション64「Design for Disability and Social Inclusion」において、論文「Communication support with the COMUOON communicate support system (COMUOONのコミュニケーション支援)」を発表しました。

COMUOONは、高性能のマイクロフォンと卵型スピーカーの組み合わせからなる、話す側から難聴者をサポートできる卓上型会話支援機器です。

COMUOONはマイクから入力された音を明確に分解して雑音などをきれいに取り除くことで、誰もが聴き取りやすいクリアな音へと変換します。そして、変換した音を卵型のスピーカーで音の拡散を防ぎながらまっすぐに届けることができます。

現在まで全国の行政医療教育機関に導入されており、IAUDアワード2014の医療福祉部門IAUDアワードやグッドデザイン賞2014も受賞しています。



論文を発表する中石氏

話す側から歩み寄るという逆転の発想

弊社はこれまで、難聴者のコミュニケーションにおける話す側での支援のあり方を検討してきました。難聴者支援用の機器として代表的なものは補聴器と人工内耳で、軽度から高度、重度難聴者に適応しています。

しかし、すべての難聴者が補聴器を装着しているわけではありません。装着が面倒であったり、他人に見られたくないなどの問題で、日本における普及率は14.1%と欧米に比べて半分以下と大変低くなっています。

また、補聴器を装着さえすれば支援が充足するののかといえ、必ずしもそうではありません。難聴者とのコミュニケーションは環境における音響特性や話す側の音声特性などに影響され、補聴器や人工内耳を装着しても意思疎通に困難がある人は多く存在しています。

補聴器や人工内耳を含めた難聴者支援機器をサポートするものとして、FM補聴システムや磁気ループ等が存在しますが、設置に手間がかかるなどすべての難聴者がその恩恵を受けているとは言い難くなっています。

難聴者が聴覚バリアを感じる場所として、病院が上位に挙げられています。患者と医療サービス提供者とのコミュニケーションがうまくいかず、インフォームドコンセントがままならなくなるところか、患者の命にまで危険が及ぶ可能性も考えられます。

このように、難聴者はコミュニケーションを行う環境や個人の聴力特性により、必要とされる支援も様々な形が要求されます。

今回の発表では、難聴者自らが補聴器などを身につけて努力を行う形とは別に、話す側から歩みより支援を行う新しい支援方法となる「卓上型会話支援機器 COMUOON」について、日本での導入事例を交えお伝えしました。



卓上型会話支援機器 COMUOON

話す側の声を難聴者が聞き取れる音に

COMUOON は、難聴者側ではなく話す側の音声に注目しているという、難聴者支援機器としては全く新しいコンセプトを持つものです。

まずはその点を皆様に理解していただくため、「Our Mission」というタイトルで COMUOON 開発における弊社の想いを明確に提示することからスピーチを開始しました。

日本や世界における難聴者数の現実を紹介し、難聴者数の増加や補聴器使用率の低さ等についても視覚的に分かりやすく提示しました。

また、難聴者への聞こえを援助するものとして誤解されやすい「音量」と「明瞭度」の関係も、健聴者が理解しやすいよう文字解読を例に、この 2 つが混同されないように説明を行いました。

さらに、難聴者の音声認識を改善するポイントとして、音量ではなく明瞭度を上げることを図解で示しました。

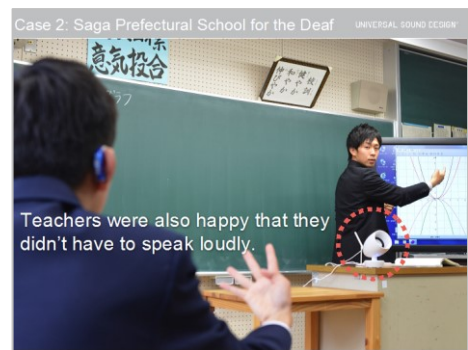
また、説得力のある内容にするため、COMUOON の機能をグラフを使って説明したり、どのような範囲を COMUOON が周波数強化しているか、脳磁図での検証結果データを提示しました。

そして、難聴者が補聴器等を用いて自身の聞こえを向上させる、というこれまでの一般的な概念を覆す、話す側の声を難聴者が聞き取れる音にするという、全く新しいコンセプトの支援機器 COMUOON の紹介へと展開しました。

さらに、実際に COMUOON を使って歪みが限りなく少ないスピーカーからの音を実演したり、COMUOON が紹介された 2016 年 3 月の NHK ワールドの放映も紹介するなど、聴衆には分かりやすいスピーチ構成であったと考えています。

発表後の質疑応答では、価格や人の声(という音)が持つ波動の存在の有無についての質問がありました。

また、出席者からは「話す側が聞こえやすさを改善する点が非常に斬新である」「スウェーデンでも補聴器をつけたがらない人に有効である」などの感想が上がり、世界でもコミュニケーションの改善における COMUOON の需要があることを知ることができました。



学校内での COMUOON 使用例を紹介

COMUOON を世界に普及するために

今回の会議への参加は、COMUOON を世界に広めていく過程においてとても重要なシーンになりました。

このようなスピーチを今後も重ねていくことで、伝え方もさらに的確になるよう進化を続けていきたいと思えます。

COMUOON の性能を開発に込めた思いと共に客観的に伝える場として、このような機会を与えていただいたことを心より感謝申し上げます。

※COMUOON の詳細についてはユニバーサル・サウンドデザイン(株)の公式サイトをご覧ください。

<http://u-s-d.co.jp/>



会場前での中石氏



テーマは「UD による共有価値の創造」
「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」開催のご案内

IAUD は「第 6 回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」を 12 月 9 日(金)から 11 日(日)までの 3 日間、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)において開催します。

今回の会議テーマ「UD による共有価値の創造」のもと、国内外の参加者の活発な意見交換と相互交流を通してより質の高い UD 社会の実現をめざします。

どうぞ奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。詳細は下記のリンクをご覧ください。

<http://www.ud2016.net/index.jp.html>



第 5 回国際 UD 会議 2014
東京会場の様子



9 月の予定

9 月 9 日現在

月	火	水	木	金	土	日
			1 9:30~ 48 時間デザイン マラソン in 東京 @芝浦工業大学	2	3 9:00~ UD 検定中級初 級 @ 芝浦工業 大学	4
5	6	7	8 11:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	9	10	11
12	13	14 10:00~ ワークスタイル PJ@IAUD サロン	15 15:00~ 情報交流センタ ー@IAUD サロン	16 13:30~ 標準化研究 WG @IAUD サロン	17	18
19 敬老の日	20 15:00~ 運営委員会 @IAUD サロン	21 ビジネスフェア 2016 出展 @ポートメッセな ごや	22 秋分の日	23 13:30~ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	24	25
26	27	28	29	30 13:30~ 手話用語 SWG @シルバー人 材センター		

次号は 10 月上旬発行予定

特集:「第 11 回 48 時間デザインマラソン in 東京」開催報告ほか

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net